

第3学年 国語科学習指導案

1 単元名 場面の様子をそうぞうしながら読もう 「ちいちゃんのかげおくり」

2 本単元の目標

- 戦争という状況の中で、家族と離れひとりぼっちになった後、幼いちいちゃんが家族に会えることを信じて命のかげおくりをするまでの様子を読み取り、書き手の平和への願いをとらえることができる。
- 時間の経過と一行空きに注意して場面をとらえ、繰り返しや類縁語に着目して登場人物の気持ちを想像したり、場面を比べて様子の違いを読んだりすることができる。

3 学習指導の考え方

- 本学級の子ども達は、「三年とうげ」の学習において、「真っ青になり」「すつとんでいき」などを類縁語と比べて読む、「がたがた」「おいおい」といった言葉ははずして読む、「どうしよう。どうしよう。」という言葉の繰り返しを読むといった読み方をする事で登場人物のおじいさんの様子や気持ちが読みとれることを学習している。そして「三年きりしか生きられぬ」という言い伝えと、トルトリの「三年生きるんだろ」という機転のきいた考えから、考え方を比べて違いのおもしろさをみつける学習もしている。これらの学習を通して、読み方を意識しながら文章を読もうとすることが少しずつ出来るようになってきているところである。しかし、場面を比べたりつないだりしながら読むことはまだあまり身に付いていない。
- 「ちいちゃんのかげおくり」は、背景に戦争があり、物語の最後には書き手の平和への強い思いが書かれている物語である。本教材は5つの場面で構成され、場面と場面の間の1行空きや、場面の最初に書かれている「夏の初めのある夜」「朝になりました」などの時を表す言葉に着目することで、場面の構成がとらえやすい教材である。また、行動を表す文が多く、人物の言動をとらえて人物の様子や気持ちの変化を読み取っていくことができる。繰り返しや類縁語、指示語に着目したり、中心文とそれを支えることばを基に、場面と場面をつないで読んだり、一場面の「家族四人のかげおくり」と四場面の「ひとりぼっちのかげおくり」を比べることで、人物の様子や気持ちの変化を読み取ることができる教材である。
- 読みの課題の段階では、題名から分かることや疑問に思うことを話し合い、冒頭の読みにつなぐ。冒頭では「家族四人でしたかげおくり」と「お兄ちゃんと二人でしたかげおくり」、ちいちゃんをとりまく状況の変化を読み取らせる。そして、これからの話の展開に興味をもたせるとともに「ちいちゃんのかげおくり」は「どんなかげおくりなのか」意識させ、読みの課題を生み出す。
はじめの答えをまとめる段階では、まず、時間の経過を表す言葉や場所を表す言葉、一行空きに目を向け話のまとまりを意識して場面分けを行い、あらすじを書きまとめる。次に、「ちいちゃんのかげおくりがどんなかげおくりか」自分なりの答えを書きまとめさせた後、話し合う。子どもの読みは大きく「家族に会えてうれしいかげおくり」と「悲しいかげおくり」の2つに分かれると考えられる。話し合いの際には、どこを読んだからそのような考えになったのかをはっきりさせる。
学習計画の段階では、答えの話し合いによって分かれた2つの読みがどの叙述をたどり結んで生まれたのかを整理して場面ごとに読み確かめていく計画をたてる。さらに、最後の場面がある意味を問いかけることで、最後の場面にこめられた書き手の思いを読み確かめていく必要感をもたせる。
読み確かめの段階では、次の四つの点を読み確かめる。
- ① ダッシュに着目して、追い抜かれたりぶつかったりした他にどんなことが起こっているのか出し合い、空しゅうの様子を想像させる。そして、たくさんの人がいるにも関わらず、「ひとりぼっち」とはどういうことか考えさせることで、ちいちゃんの寂しさや不安な気持ちを読み取らせる。
- ② 「深く」「また深く」うなずくちいちゃんの様子を想像させ、「きっと帰ってくるよ」の言葉とつなぐことで家族の帰りを強く信じているちいちゃんの気持ちを読み取らせる。さらに、「食べました」「かじりました」を比べさせ、家族の帰りを強く信じる思いの強さと反対に体は衰弱していくちいちゃんの様子を読み取らせる。
- ③ 最初の場面と比べながら、ふらふらする足をふみしめてひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や、家族と会えたちいちゃんの幸せそうな様子を読み取らせる。
- ④ それまで読み取ってきたこととつないで「夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が空に消えました。」という叙述に込められた書き手の思いに気づかせる。

読みのまとめ・読み方のまとめの段階では、「それから何十年」の場面の子も達の様子とちいちゃん達の様子を、ちいちゃんが一人でかげおくりをしたところが今は小さな公園になっていることや「きらきらわらい声をあげて」と「きらきらわらいだしました」の叙述をもとに比べる。そして、書き手の平和への願いに気付かせ、題名に戻って自分の感想をまとめる。最後に、登場人物の様子や気持ちを読み取ったり、書き手の思いを想像したりするために、どんな読み方をしたのか振り返り、読み方のまとめをする。

4 学習指導計画 (全12時間)

次	時	ねらい及び学習活動と内容	指導上の留意点
一 読 み の 課 題	1	<p>◎ 単元名を構えとして、題名と冒頭の読みをつないで、読みの課題を生み出すことができるようにする。</p> <p>1 単元名から、学習の構えをもつ。</p> <p>2 題名を読み、どんな物語なのか考える。</p> <p>3 冒頭を読み、二つのかげおくりの楽しさとちいちゃんをとりまく状況の変化を読み取らせる。</p> <p>4 題名と冒頭で読み取ったことをつないで読みの課題を生み出す。 読みの課題</p> <p>1 ちいちゃんは、これからかげおくりができるのかな。</p> <p>2 ちいちゃんのかげおくりは、どんなかげおくりなのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 単元名「場面の様子をそうぞうしながら読もう」について既習学習を振り返りながら説明し、学習の構えをもたせる。 挿し絵からちいちゃんの年齢を想像させ、まだ幼い女の子であることをとらえさせる。 家族みんなで数を数える様子から家族四人でしたかげおくりの楽しさをとらえさせる。 いろいろなかげをおくる様子からお兄ちゃんと二人でしたかげおくりの楽しさをとらえさせる。 「広い空は、楽しい所ではなく、とてもこわい所にかわりました。」の一文に着目させ、状況の変化を読み取らせる。 冒頭は家族四人やお兄ちゃんのかげおくりなのに、なぜ「ちいちゃんのかげおくり」になっているのかを考えさせ、問題意識をもたせる。
二 は じ め の 答 え を ま と め る	3	<p>◎ 読みの課題をもとに全文を読み通し、はじめの答えをまとめることができるようにする。</p> <p>1 挿し絵や時と場所を表す言葉、一行空きを手がかりに、冒頭の部分を含めて大きく5つの場面に分かれていることを知り、あらすじをとらえる。</p> <p>2 ちいちゃんのかげおくりを自分がどうとらえたか書きまとめる。</p> <p>3 クラスの答えをまとめる。 予想される答えの方向</p> <p>家族とはぐれてひとりぼっちになってしまったけれども家族と会えることを信じているちいちゃんが、たった一人でかげおくりをして空で家族と会えたうれし</p>	<ul style="list-style-type: none"> 挿し絵を並べ替えて物語のおおまかな展開をとらえるとともに、時を表す言葉を押さえ、この物語が大きく5つの場面からできていることを理解させる。 挿し絵をもとに各場面の時間、場所をとらえながらちいちゃんの行動を順にとらえさせる。 ちいちゃんのかげおくりが4の場面に出てきていることから「ちいちゃんのかげおくり」がこの場面のかげおくりを指していることを理解させる。

		いかげおくり。でも、本当はたった一人で命を送った悲しいかげおくり。	
三 学 習 計 画	1	◎ まとめた答えの曖昧なところを確かめ、学習計画をたてることができるようにする。 1 話し合いの中で、根拠となった叙述を整理する。 2 どの場面でどんなことを確かめていけばよいか話し合う。 3 最後の場面がある意味を考え、読みのまとめで考えていく必要感をもつ。	・ 話し合いによって大きく分かれた二つの読みが、どの叙述をどうたどって生まれたのかを整理し、確かめていく必要感をもたせる。 ・ 最後の場面があるときとないときでどう違うか問いかけ、最後の場面に込められた書き手の思いを読み確かめていく必要感をもたせる。
四 読 み 確 か め	1	◎ 「ひとりぼっちになりました」を中心に、家族とはぐれた場面の様子を想像しながら、ひとりぼっちになったちいちゃんの寂しさと不安を読み取ることができるようにする。 1 お母ちゃんとはぐれてひとりぼっちになるまでの様子を話し合う。 2 ひとりぼっちになってたくさんの人の中でねむる時のちいちゃんの気持ちを話し合う。 3 本時読み取ったことを書きまとめ、学んだ読み方を振り返る。	・ 町の様子を想像させたり「お母ちゃん」の繰り返しを読むことで、ちいちゃんの恐ろしさを読み取らせるようにする。 ・ 「ひとりぼっち」を似たことばと比べることで、ちいちゃんの不安や寂しさを読み取らせるようにする。
	2	◎ 「きっと帰ってくるよ」を中心に、焼け跡でひとりぼっちで家族を待ち続ける様子やちいちゃんの体が弱っていく様子を想像しながら、家族と会いたいと強く願うちいちゃんの気持ちを読み取ることができるようにする。 1 ひとりぼっちで家族を待ちちいちゃんの気持ちが読みとれる叙述に書き込みをする。 ----- 2 書き込みをもとに家族に会えることを信じて待ちちいちゃんの様子や気持ちを話し合う。 3 本時読み取ったことを書きまとめ、学んだ読み方を振り返る。	・ 「深くうなずきました」の繰り返しや「きっと帰ってくるよ」の「きっと」を外して読むことで、家族に会えることを信じて待ちちいちゃんの気持ちを読み取らせる。 ・ 「食べました」と「かじりました」を比べることで、ちいちゃんの体が衰弱していく様子を読み取らせる。
	2	◎ 「ふらふらする足をふみしめて」かげおくりをするちいちゃんの様子や、空でのちいちゃんの幸せそうな様子を読み取ることができるようにする。 1 ひとりぼっちでかげおくりをするちいちゃんの様子や気持ちと、花畑で家族に会ったときの様子や気持ちが読みとれる叙述に書き込みをする。 ----- 2 書き込みをもとにひとりぼっちでかげ	・ 「ふらふらする足をふみしめて立ち上がる」を前の場面までに確かめてきたこれまでの家族に会いたいと強く願うちいちゃんの様子や体が衰弱している様子をつなぎ、必死でかげおくり

	<p>おくりをするちいちゃんの様子や気持ちを話し合う。</p> <p>3 花畑で家族に会ったときのちいちゃんの様子や気持ちを話し合う。</p>	<p>をする思いを読み取らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 冒頭のかげおくりと比べて、「ふつてきました」の言葉の違いや「たった一つのかげぼうし」から一人でした命のかげおくりであることを確かめさせる。 「きらきら」の叙述から、ちいちゃんが家族に会えてとてもうれしい気持ちであることを読み取らせる。
	<p>1</p> <p>◎ 「小さな女の子の命がきえました」の一文をもとに、書き手の思いに気付くことができるようにする。</p> <p>1 「夏のはじめのある朝～きえました」の叙述をもとに書き込みをする。</p> <p>2 書き込みをもとに話し合う。</p> <p>3 本時読み取ったことを書きまとめ、学んだ読み方を振り返る。</p>	<p>1 「小さな女の子」「命が空にきえました」の言葉と「ちいちゃん」や「命がなくなりました」などの言葉を比べて、書き手の思いに気付かせる。</p>
<p>五 読 み と 読 み 方 の ま と め</p>	<p>1</p> <p>◎ 一行空きの場面の子ども達とちいちゃんの様子を比べ、書き手の平和への願いに気づき、題名に戻って自分の感想をまとめることができるようにする。</p> <p>1 「それから何十年」の場面の子ども達の様子とちいちゃんの様子を比べながら、この場面を書いた書き手の思いを話し合う。</p> <p>2 題名に戻って感想をまとめる。</p> <p>3 学んだ読み方をまとめる。</p>	<p>1 ちいちゃんが一人で命を送った場所が何十年後に公園になってたくさんの子ども達が楽しそうに遊んでいるということを押さえ、そこに込められた書き手の思いを想像させる。</p> <p>2 最後の場面の子ども達の様子とちいちゃんの様子を「きらきらわらい声をあげて」「きらきらわらいだしました」の叙述をもとに比べ、書き手の平和への願いに気付かせる。</p> <p>3 「ちいちゃんのかげおくりはどんなかげおくりなのか」「自分はそれをどう思うか」という二つの観点から書きまとめさせる。</p>

6 本時の目標 (8 / 12 時間目)

- 「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」を中心に家族に会えることを強く信じて待ち続けるちいちゃんの気持ちと、強い気持ちをもちながらも体は弱っていく様子を読み確かめることができる。
- ちいちゃんの体が弱っていく様子や家族に会いたいと強く願う気持ちを読み取るために、繰り返しを読む、言葉を外して読む、文末表現を読む読み方を身に付けることができる。

7 本時指導の考え方

これまでに子ども達は、空襲の中で家族とはぐれ、ひとりぼっちになってしまったちいちゃんの不安や寂しさを読み確かめている。

本時は、お母ちゃんとお兄ちゃんに会えることを強く信じてひたすら待ち続けるちいちゃんの気持ちや体が弱っていく様子を読み確かめる学習である。

本時指導にあたっては、まず中心文「お母ちゃんとお兄ちゃんはきっと帰ってくるよ。」の「きっと」の言葉から、なぜ「きっと」と言っているのかを考えさせ、家族に会えることを強く信じている気持ちを読み取らせる。次に、はす向かいのおばさんの問いかけに「深くうなずきました。」「また深くうなずきました。」と繰り返しうなずいている姿と「きっと」で読み取ったことをつないで、お母ちゃんとお兄ちゃんが帰ってくることを強く信じて待っているちいちゃんの気持ちをとらえさせる。そして、「帰ってくるよ。」の文末から、誰に言っているのかを考えさせ、ちいちゃんが不安をもちながらも自分自身に言い聞かせ、励ましていることを読み取らせたい。

ちいちゃんが家族に会えることを強く信じて待っていることを確認した後、家族を待っているときの様子を話し合う。ほしいいを「食べました。」「かじりました。」の言葉を比べて、なぜ変わっているのかを考えさせ、家族に会えることを強く信じる気持ちを持ちながらも、ちいちゃんの体はだんだん弱っている様子を読み取らせる。

最後に、ひとりぼっちで待つちいちゃんの様子や気持ちについて読み確かめたことを書きまとめさせる。また、本時学んだ読み方を振り返らせ、次の学習への転移をはかる。

8 板書

場面の様子をそうぞうしながら読もう
 ちいちゃんのかげおくり あまん きみこ
 「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」を中心にちいちゃんの様子や気持ちを読み取り、答えをたしかめよう。
 ひとりぼっちになりました

朝になりました

どこがうちなのか
 なくのをやつとこらえて
 「おうちのどこ」

深くうなずきました
 また深くうなずきました

その夜

ほししいを少し食べました。
 ぼうくうごうの中でねむりました

「お母ちゃんとお兄ちゃんは
 きっと帰ってくるよ。」
 自分に言い聞かせているように
 不安をけすように

くもった朝が来て昼がすぎ、また暗い夜がきました

ほししいを少しかじりました
 つかれきって
 弱りかけて
 ぼうくうごうの中でねむりました

ちいちゃんは、家族に会えることをとても強く信じてまっていたんだよ。でも、ちいちゃんの体はどんどん弱っていったんだよ。

9 本時の展開

時	学習活動と内容	指導上の留意点
2	<p>1 本時学習のめあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。」を中心にちいちゃんの様子や気持ちを読み取り、答えをたしかめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時までに読み確かめてきたことを、示物を使って想起させながら、本時のめあてを確認する。
2	<p>2 本時場面を 読する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 姿、 に気を付けて 読させるようにする。
3 1	<p>3 ちいちゃんの気持ちや様子を話し合う。</p> <p>(1) 中心文の中の「きっと」にこめられた気持ちを話し合う。</p> <p>(2) 「深くうなずきました。」「また深くうなずきました。」にこめられた気持ちを話し合う。</p> <p>(3) 「帰ってくるよ。」にこめられた気持ちを話し合う。</p> <p>(4) 「食べました。」「かじりました。」を比べ、ちいちゃんの様子を話し合う。</p> <p>4 はじめの答えのどこが確かめられたのか、振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「きっと」を外して「きっと帰ってくるよ。」と「帰ってくるよ。」を比べ、家族に会えると強く信じている気持ちを読み取らせる。 「深くうなずきました」の繰り返しから、なぜ二 もうなずいたのか考えさせ、お母ちゃんとお兄ちゃんに会えることを信じている気持ちの強さを「きっと」で読み取ったこととつないでとらえることができるようにする。 中心文の「帰ってくるよ。」は誰に言っているのか考えさせ、自分自身に言い聞かせながら待つちいちゃんの気持ちを読み取らせる。 「食べました。」がなぜ「かじりました。」に変わっているのか考えさせ、体が弱っていていることを読み取らせる。 言をさせる際には、どこをつないでそう考えたのか問い返したり、示物しながら表させたりして、たどり結びながら考えることができるようにする。 示物を使って、答えのどこが確かめられたかを振り返ることができるようにする。
1 0	<p>5 本時学習をまとめる。</p> <p>(1) 自分の考えを書きまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日のちいちゃんはどんなちいちゃんだったか 自分はちいちゃんをどう思ったか <p>(2) 表する。</p> <p>(3) 本時学んだ読み方を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 繰り返しを読む 言葉を外して読む 文末を読む 	<ul style="list-style-type: none"> 学習 リ トに「今日のちいちゃん」と「自分の感想」の を分けて っておき、何を書けばいいのかわかりやすくしておく。 書に づけた読み方 をもとに本時 った読み方を振り返ることができるようにする。